

で返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇)字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望

編集後記

日本医史学会が百回を迎えるという記念すべき年になった。百年というのは客観的に数えることができるが、百回というのは頻度を多くしたり少なくしたりすれば人為的に操作できるので、歴史の目安にはしにくいとも考えられる。

昨年日本消化器病学会が百年記念式を挙げた。その委員会が最初にしたことは発会の日の同定からで、従来言われてきた年を一年繰り上げることになった。日本外科学会が今年が百年だが、一回抜けているので来年第百回で記念行事をすることになっている。

者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒二三一六四三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

日頃あまり重視していない歴史をそれぞれの学会が見なおす気運になっている。それに対して、日頃歴史を扱っている日本医史学会では歴史の節目の時に何を焦点にするのだろうかと会員一同が深い関心を寄せているに違いない。

酒井シヅ会長は第一回に相当する「医科先哲祭」の開催された三月四日に因んで、その日に『解体新書』の原点、千住の小塚原の回向院に参拝しようという企画が実行された。

このところ主体が明治以後に移っている医史学を原点の蘭学に戻すヒントになるかもしれない。

(大村 敏郎)